

# 令和2年度 学校自己評価結果

令和2年度 兵庫県立明石城西高等学校 学校自己評価（教員）

教育目標	生徒を中心に据え、基盤となる人間力の育成に努める。 ・人間力とは、進路希望を実現できる学力である。 ・人間力とは、服装や言葉遣い等も含めたコミュニケーション力である。 ・人間力とは、部活動や生徒会活動等を通して、仲間と協調し、目的に向かって努力し続ける意志力である。	≪実践目標達成状況≫ よくできている 4 できている 3 あまりできていない 2 できていない 1
重点目標	1 校訓の具現化：教育目標実現のため、懸命に「努力」し、関係者が「協調」し、望ましい校風の「創造」を達成する。 2 夢の実現に挑戦し続ける：生きがいのある人生を切り拓き、自己実現を可能にする能力の錬磨に励み、社会性や国際性の備わった人間形成に努める。 3 共に生きる心を育成する：心のふれあう温かい人間関係と、お互いを尊重し合う学校生活の中で、自己と他者を共に尊重する心を育成する。 4 心身の健全な調和を図る：知性・教養を磨き、倫理観や規範意識を高め、体力の向上と自ら学ぶ力や生きる力を培い、心身ともに健全で調和の取れた成長を目指す。 5 教職員の使命感を高める：授業研究ならびに個人研究等の実践を通して、教職員全員が職務の自覚と使命感を深め、人間性の涵養と指導力の研鑽に努める。	≪評価基準≫ 4段階評価の平均が 3.1以上 A 2.8以上 B 2.6以上 C 2.5以下 D とした。今回の評価者は42人。

領域等	評価の観点	評価項目	実践目標（指標）	平均	評価	
学校運営	開かれた学校づくり	1 家庭や地域への情報発信	ホームページの更新、学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に新しい情報を積極的に提供する。	3.1	A	
		2 学校評議員を活用した学校運営推進	学校評議員会や授業・行事の公開を通じて、学校評議員の意見等を学校運営の改善に役立てる。	2.8	B	
	生徒指導（保健指導含む）	3 生徒指導方針の確認と指導体制の推進	生徒指導方針を生徒・保護者に明確に示すとともに、教職員が共通理解したうえで指導に当たる。	2.4	D	
		4 生徒の内面の理解を図る指導の工夫	適宜個人面談を実施するとともに、カウンセリングマインドの習得に努めることにより、生徒の内面理解を図る。	3.0	B	
		5 いじめの未然防止	本校のいじめ防止基本方針に基づき、計画的にいじめ対策に取り組み、いじめを生まない土壌作りを努める。	2.9	B	
	進路指導	6 体系的なキャリア教育の実践	公開授業・研究授業及び諸課題に係る校内研修の実施により、指導力の向上を図る。	3.0	B	
		7 主体的な進路選択の支援	さまざまな機会を捉え、進路選択に係る情報を提供し、適時、面談等を通じて進路選択への意識を高める。	3.2	A	
	教職員の資質向上	8 実践的指導力の向上	公開授業・研究授業及び学校の諸課題に係る校内研修の実施により、指導力の向上を図る。	2.7	C	
		9 社会の変化に対応した教育観の育成	校外研修や教育研究会等で得られた情報や成果を共有し、社会の変化やニーズ、教育の新しい動向に対応しようとする。	2.7	C	
		10 ICT利活用の推進と進化（深化）	ICT（スマートフォンを含む）の利活用による教授方法の研究に努め、「わかる授業」を実践する。	3.1	A	
	危機管理体制の整備	11 実効ある危機管理マニュアルの策定	実情に応じた危機管理マニュアルの作成と見直しを行い、日頃から対応を意識した行動をとる。	2.6	C	
		12 教員の実践的な研修・訓練	重大事故発生時の適切な対応や、生徒・教職員の心のケア等についての研修を行う。	2.5	D	
	選択項目	学校運営全般	13 校務分掌と協働体制の確立	各部の指導の重点または各学年の経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	2.7	C
			14 勤務時間の適正化推進	勤務時間の適正化（「ノー部活デー」の取組を含む）を意識するとともに、自身の業務の在り方を見直す資料として従事時間申告表を提出している。	3.1	A
		PTCA活動	15 PTCAとの連携	保護者や地域に教育活動を公開するとともに、地域ぐるみの活動の充実を図り、連携を深める。	2.7	C
教育課程	共通項目	16 自ら学び自ら考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に努める。	2.7	C
		17 基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と学習習慣の確立	適切な家庭学習課題の指示と「学習の記録」の活用により、基礎・基本の定着を図る。	2.6	C
		18 総合的な学習の時間	教職員の協働体制と創意工夫した実践	総合的な探究の時間によりふさわしい内容を検討する。	2.7	C
		19 個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	シラバスの作成と観点別評価の導入等により、多様な生徒に対するきめ細かい指導を行う。	2.7	C
	選択項目	20 特別活動（学校行事等）	21 学校行事の精選と内容の充実	生徒会活動やホームルーム活動において、生徒の自発的・自治的な活動が行われるよう支援する。 行事庶務検討委員会を定期的に開催し、学校行事の精選と内容の充実を図る。	2.8 2.6	B C
課題教育	共通項目	22 防災・安全教育	防災教育に係る指導力・実践力向上	防災避難訓練の実施と危険箇所の点検、救急救命講習の受講により、教職員の意識と技能を高める。	2.7	C
		23 人権教育	人権教育推進体制の充実	3年間を見通した人権LHRや講演会等の充実を図り、自他を尊重する態度を育む。	2.9	B
	選択項目	24 情報教育	情報活用能力と情報モラルの育成	生徒がICTを適切に活用する能力とともに、人権尊重を基盤とした情報モラルを育成する。	2.8	B
		25 環境・福祉教育	環境教育の推進	ゴミや省資源等の身近な問題から生徒の環境への関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる。	2.4	D
	独自項目	26 学校の個性化・多様化	27 「一生懸命がかっこいい」を具現化する生徒の育成	コースを中心として、異なる文化や価値観を理解し尊重する態度と、英語によるコミュニケーション能力を育成する。 規範意識と基本的な生活習慣が確立し、自己実現に向けて粘り強く努力できる生徒を育てる。	3.0 2.7	B C

令和2年度 兵庫県立明石城西高等学校 学校自己評価（全生徒）

教育目標	生徒を中心に据え、基盤となる人間力の育成に努める。 ・人間力とは、進路希望を実現できる学力である。 ・人間力とは、服装や言葉遣い等も含めたコミュニケーション力である。 ・人間力とは、部活動や生徒会活動等を通して、仲間と協調し、目的に向かって努力し続ける意志力である。	≪実践目標達成状況≫ よくできている 4 できている 3 あまりできている 2 できていない 1
重点目標	1 校訓の具現化：教育目標実現のため、懸命に「努力」し、関係者が「協調」し、望ましい校風の「創造」を達成する。 2 夢の実現に挑戦し続ける：生きがいのある人生を切り拓き、自己実現を可能にする能力の錬磨に励み、社会性や国際性の備わった人間形成に努める。 3 共に生きる心を育成する：心のふれあう温かい人間関係と、お互いを尊重し合う学校生活の中で、自己と他者を共に尊重する心を育成する。 4 心身の健全な調和を図る：知性・教養を磨き、倫理観や規範意識を高め、体力の向上と自ら学ぶ力や生きる力を培い、心身ともに健全で調和の取れた成長を目指す。 5 教職員の使命感を高める：授業研究ならびに個人研究等の実践を通して、教職員全員が職務の自覚と使命感を深め、人間性の涵養と指導力の研鑽に努める。	≪評価基準≫ 4段階評価の平均が 3.1以上 A 2.8以上 B 2.6以上 C 2.5以下 D とした。今回の評価者は710人。

領域等	評価の観点	評価項目	実践目標（指標）	平均	評価		
学校運営	開かれた学校づくり	1 家庭や地域への情報発信	学校ホームページや学年通信等で、生徒の日常の様子が紹介されている。	3.0	B		
		2 学校評議員を活用した学校運営推進					
	生徒指導（保健指導含む）	3 生徒指導方針の確認と指導体制の推進	生徒の基本的な生活習慣の確立に向けて、先生は熱心に指導を行っている。	3.1	A		
		4 生徒の内面の理解を図る指導の工夫	先生方には、不安や悩み事を気軽に相談できる雰囲気がある。	2.8	B		
		5 いじめの未然防止	先生方からは、いじめを生まない、許さない、放置しないという姿勢が感じられる。	3.1	A		
	進路指導	6 体系的なキャリア教育の実践	進路HR・講演会等を通して、進路目標が明確になった。	2.8	B		
		7 主体的な進路選択の支援					
	教職員の資質向上	8 実践的指導力の向上	教材や指導方法の工夫が感じられる魅力的な授業が多い。	2.7	C		
		9 社会の変化に対応した教育観の育成					
		10 ICT利活用の推進と進化（深化）	ICT（スマートフォンを含む）を活用した授業のおかげで、学習内容の理解が深まっている。	2.9	B		
	危機管理体制の整備	11 実効ある危機管理マニュアルの策定					
		12 教員の実践的な研修・訓練					
	選択項目	学校運営全般	13 校務分掌と協働体制の確立				
			14 勤務時間の適正化推進	「ノ一部活デー」の取組（適切な休養日の設定）がなされており、バランスのとれた生活を送れている。	2.8	B	
		PTCA活動	15 PTCAとの連携				
教育課程	共通項目	16 自ら学び自ら考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	先生の講義だけではなく、生徒が主体的に参加できる授業が多い。	2.6	C	
		17 基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と学習習慣の確立	家庭学習の習慣が確立していて、課題にも前向きに取り組んでいる。	2.8	B	
		18 総合的な学習の時間	教職員の協働体制と創意工夫した実践				
		19 個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	授業や考査・小テスト、提出物に関して、きめ細かな指導が行われている。	3.3	A	
	選択項目	20 特別活動（学校行事等）	21 自主的・実践的な活動の活性化 22 学校行事の精選と内容の充実	学校行事や生徒会行事の内容と実施時期に満足している。	2.5	D	
課題教育	共通項目	22 防災・安全教育	23 防災教育に係る指導力・実践力向上	防災避難訓練等を通して、非常時にはどのように行動すべきか理解できている。	3.1	A	
		23 人権教育	24 人権教育推進体制の充実	互いの違いを認め合い、相手を大切にしようとする態度が身についている。	3.3	A	
	選択項目	24 情報教育	25 情報活用能力と情報モラルの育成	スマートフォンやSNSを利用する時は、ネット上のルールやマナーを守っている。	3.6	A	
		25 環境・福祉教育	26 環境教育の推進	校内清掃に励み、身近な生活環境を美しく保とうと意識している。	3.2	A	
	独自項目	学校の個性化・多様化	26 グローバル人材の育成	27 「一生懸命がかっこいい」を具現化する生徒の育成	英語によるコミュニケーション能力を高めようとしている。 「一生懸命がかっこいい」といえる高校生活を送っている。（※友だちと比較して判断しない）	3.3 2.9	B B

令和2年度 兵庫県立明石城西高等学校 学校自己評価（全保護者）

教育目標	生徒を中心に据え、基盤となる人間力の育成に努める。 ・人間力とは、進路希望を実現できる学力である。 ・人間力とは、服装や言葉遣い等も含めたコミュニケーション力である。 ・人間力とは、部活動や生徒会活動等を通して、仲間と協調し、目的に向かって努力し続ける意志力である。	≪実践目標達成状況≫ よくできている 4 できている 3 あまりできていない 2 できていない 1
重点目標	1 校訓の具現化：教育目標実現のため、懸命に「努力」し、関係者が「協調」し、望ましい校風の「創造」を達成する。 2 夢の実現に挑戦し続ける：生きがいのある人生を切り拓き、自己実現を可能にする能力の錬磨に励み、社会性や国際性の備わった人間形成に努める。 3 共に生きる心を育成する：心のふれあう温かい人間関係と、お互いを尊重し合う学校生活の中で、自己と他者を共に尊重する心を育成する。 4 心身の健全な調和を図る：知性・教養を磨き、倫理観や規範意識を高め、体力の向上と自ら学ぶ力や生きる力を培い、心身ともに健全で調和の取れた成長を目指す。 5 教職員の使命感を高める：授業研究ならびに個人研究等の実践を通して、教職員全員が職務の自覚と使命感を深め、人間性の涵養と指導力の研鑽に努める。	≪評価基準≫ 4段階評価の平均が 3.1以上 A 2.8以上 B 2.6以上 C 2.5以下 D とした。今回の評価者は301人。

領域等	評価の観点	評価項目	実践目標（指標）	平均	評価	
学校運営	開かれた学校づくり	1 家庭や地域への情報発信	学校ホームページや学年通信等で、子どもや学校の様子が日常的に伝えられている。	3.0	B	
		2 学校評議員を活用した学校運営推進				
	生徒指導（保健指導含む）	3 生徒指導方針の確認と指導体制の推進	生徒指導方針（基本的生活習慣の確立と事故防止）に沿った指導が行われている。	3.2	A	
		4 生徒の内面の理解を図る指導の工夫				
		5 いじめの未然防止	学校全体でいじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める姿勢が感じられる。	2.9	B	
	進路指導	6 体系的なキャリア教育の実践	保護者会・三者面談等を通じて、学校と協力しながら、進路決定が進められた。	3.1	A	
		7 主体的な進路選択の支援				
	教職員の資質向上	8 実践的指導力の向上				
		9 社会の変化に対応した教育観の育成				
		10 ICT利活用の推進と進化（深化）	タブレット（スマートフォンを含む）やプロジェクタ等の利活用は子どもの学力育成に役立つ。	3.4	A	
	危機管理体制の整備	11 実効ある危機管理マニュアルの策定	eメッセージは危機管理や防災上有効である。	3.5	A	
		12 教員の実践的な研修・訓練				
選択項目	学校運営全般	13 校務分掌と協働体制の確立	子どもの学年の経営方針（どのような生徒を育てたいのか）を理解している。	2.8	B	
		14 勤務時間の適正化推進	「ノ一部活デー」の取組（適切な休養日の設定）により、子どもはバランスのとれた生活を送れている。	2.9	B	
	PTCA活動	15 PTCAとの連携	学校と家庭・地域が連携し協力できる関係にある。	2.7	C	
教育課程	共通項目	16 自ら学び自ら考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	入学時と比較して、子どもには主体的に学習に取り組む姿勢が育っている。	3.1	A
		17 基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と学習習慣の確立	子どもは家庭での学習習慣が確立しており、課題の量も適切である。	2.9	B
		18 総合的な学習の時間	教職員の協働体制と創意工夫した実践			
		19 個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	子どもに対して、個に応じたきめ細かな学習指導がなされている。	2.6	C
	選択項目	20 特別活動（学校行事等）	21 学校行事の精選と内容の充実	各種学校行事の内容や実施時期は満足できるものである。	2.7	C
課題教育	共通項目	22 防災・安全教育	防災教育に係る指導力・実践力向上			
		23 人権教育	人権教育推進体制の充実	子どもには、互いの違いを認め合い尊重しようとする態度が備わっている。	3.2	A
	選択項目	24 情報教育	情報活用能力と情報モラルの育成	子どもはスマートフォンやSNS利用時のルールやマナーが身についている。	3.1	A
		25 環境・福祉教育	環境教育の推進	子どもたちの生活環境・学習環境はよく整えられている。	3.0	B
	独自項目	26 学校の個性化・多様化	27 「一生懸命がかっこいい」を具現する生徒の育成	入学時と比較して、子どもの英語によるコミュニケーション能力は高まっている。 子どもは「一生懸命がかっこいい」と言える高校生活を送っている。（※他者とは比較しない）	2.7 3.0	C B

三者(教員・生徒・保護者)による評価結果一覧〔比較表〕

【令和2年度評価 基準日:2月1日】

≪ 4段階評価 ⇒ A:3.1以上 B:2.8以上 C:2.6以上 D:2.5以下 ≫

領域等	評価の観点	評価項目	教員(行動指標)	平均	評価	生徒(成果指標)	平均	評価	保護者(成果指標)	平均	評価
学校運営	開かれた学校づくり	1 家庭や地域への情報発信	eメッセージ、HPの更新、学年通信等を通じて保護者や地域に新しい情報を積極的に提供する。	3.1	A	1 学校HPや学年通信等で、生徒の日常の様子が紹介されている。	3.0	B	1 学校HPや学年通信等で、子どもや学校の様子が日常的に伝えられている。	3.0	B
		2 学校評議員を活用した学校運営推進	学校評議員会を学期に1回以上開催し、授業や行事の改善に役立てる。	2.8	B						
	生徒指導(保健指導含む)	3 生徒指導方針の確認と指導体制の推進	指導方針を生徒・保護者に明示し、教職員の共通理解のもとで生徒指導に当たる。	2.4	D	2 生徒の基本的な生活習慣の確立に向けて、先生は熱心に指導を行っている。	3.1	A	2 生徒指導方針(基本的な生活習慣の確立と事故防止)を理解している。	3.2	A
		4 生徒の内面の理解を図る指導の工夫	適時の個人面談とカウンセリングマインドの習得により、生徒の内面理解に努める。	3.0	B	3 先生方からは、不安や悩み事を気軽に相談できる雰囲気がある。	2.8	B			
		5 いじめの未然防止	本校のいじめ防止基本方針に基づき、いじめを生まない土壌作りに努める。	2.9	B	4 先生方からは、いじめを生まない、許さない、放置しないという姿勢が感じられる。	3.1	A	3 教員からはいじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める姿勢が感じられる。	2.9	B
	進路指導	6 体系的なキャリア教育の実践	公開授業・研究授業及び諸課題に係る校内研修の実施により、指導力の向上を図る。	3.0	B	5 進路HR・講演会等を通して、進路目標が明確になった。	2.8	B	4 保護者会・三者面談等を通じて、学校と協力しながら、進路決定が進められた。	3.1	A
		7 主体的な進路選択の支援	さまざまな機会を捉え、進路選択に係る情報を提供し、適時、面談等を通じて進路選択への意識を高める。	3.2	A						
	教職員の資質向上	8 実践的指導力の向上	公開授業・研究授業及び諸課題に係る校内研修の実施により、指導力の向上を図る。	2.7	C	6 教材や指導方法の工夫が感じられる魅力的な授業が多い。	2.7	C			
		9 社会の変化に対応した教育観の育成	校外研修等で得た情報や成果を共有し、社会の変化やニーズ、教育の新しい動向に対応する。	2.7	C						
		10 ICT利活用の推進と進化(深化)	ICTの活用による教授方法の研究に努め、「わかる授業」を実践する。	3.1	A	7 ICTを活用した授業のおかげで、学習内容の理解が深まっている。	2.9	B	5 タブレットや電子黒板(プロジェクター)等の利活用が子どもの学力育成に役立っている。	3.4	A
	危機管理体制の整備	11 実効ある危機管理マニュアルの策定	実情に応じた危機管理マニュアルを作成し、日頃から対応を意識した行動を心がける。	2.6	C				6 eメッセージの活用は、危機管理や防災上の観点から有効である。	3.5	A
		12 教員の実践的な研修・訓練	危機的事態や重大事故発生時の適切な対応や、関係者の心のケア等について研修を積む。	2.5	D						
	学校運営全般	13 校務分掌と協働体制の確立	各部の指導の重点または各学年の経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	2.7	C				7 子どもの学年の経営方針(どのような生徒を育てたいのか)を理解している。	2.8	B
		14 勤務時間の適正化推進	勤務時間の適正化(「ノー部活デー」の取組を含む)を意識するとともに、自身の業務の在り方を見直す資料として従事時間申告表を提出している。	3.1	A	8 「ノー部活デー」の取組(適切な休養日の設定)がなされており、バランスのとれた生活を送れている。	2.8	B	8 「ノー部活デー」の取組(適切な休養日の設定)により、子どもはバランスのとれた生活を送れている。	2.9	B
		15 PTCA活動の充実	保護者や地域に教育活動を公開するとともに、地域ぐるみの活動の充実を図り、連携を深める。	2.7	C				9 学校と家庭・地域が連携し協力できる関係にある。	2.7	C

領域等	評価の観点	評価項目	教員(行動指標)	平均	評価	生徒(成果指標)	平均	評価	保護者(成果指標)	平均	評価	
教育課程	共通項目	16 体系的・問題解決的な学習の展開	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に努める。	2.7	C	9 先生の講義だけではなく、生徒が主体的に参加できる授業が多い。	2.6	C	10 入学時と比較して、子どもには主体的に学習に取り組む姿勢が育っている。	3.1	A	
		17 生徒の学力の把握と学習習慣の確立	適切な家庭学習課題の指示と「学習の記録」の活用により、基礎・基本の定着を図る。	2.6	C	10 家庭学習の習慣が確立してきて、課題にも前向きに取り組んでいる。	2.8	B	11 子どもは家庭での学習習慣が確立しており、課題の量も適切である。	2.9	B	
		18 総合的な学習(探究)の時間	教職員の協働体制と創意工夫した実践	2.7	C							
		19 個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	2.7	C	11 授業や考査・小テスト、提出物に関して、きめ細かな指導が行われている。	3.3	A	12 子どもに対して、個に応じたきめ細かな学習指導がなされている。	2.6	C	
	選択項目	特別活動(学校行事等)	20 自主的・実践的な活動の活性化	主体的な生徒会活動の運営と、生活全体のバランスを確保した部活動の充実を図る。	2.8	B	12 学校行事が生徒主体で行われている。内容や実施時期に満足している。	2.5	D	13 各種学校行事の内容や実施時期は満足できるものである。	2.7	C
21 学校行事の精選と内容の充実			行事応募検討委員会を定期的に開催し、行事の精選と内容の充実を図る。	2.6	C							
課題教育	共通項目	22 防災・安全教育	実践的な訓練と危険箇所の点検、救命講習により、教職員の意識と技術を高める。	2.7	C	13 防災避難訓練や日常の指導により、非常時は安全迅速に行動できる(と思う)。	3.1	A				
		23 人権教育	3年間を見通した計画的な人権LHR等を実施し、自己を尊重する態度を育む。	2.9	B	14 互いの違いを認め合い、相手を大切にしようとする態度が身についている。	3.3	A	14 子どもには、互いの違いを認め合い尊重しようとする態度が備わっている。	3.2	A	
	選択項目	情報教育	24 情報活用能力と情報モラルの育成	生徒のICTを適切に活用する能力と人権尊重を基盤とした情報モラルを育成する。	2.8	B	15 スマートフォンやSNSを利用する時は、ネット上のルールやマナーを守っている。	3.6	A	15 子どもはスマートフォンやSNS利用時のルールやマナーが身についている。	3.1	A
			25 環境・福祉教育	ゴミや省資源等の身近な問題から生徒の関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる。	2.4	D	16 校内清掃に励み、身近な生活環境を美しく保つと意識している。	3.2	A	16 子どもたちの生活環境・学習環境はよく整えられている。	3.0	B
	独自項目	学校の個性化・多様化	26 グローバル人材の育成	コースを中心として、異なる文化や価値観を理解し尊重する態度と、英語によるコミュニケーション能力を育成する。	3.0	B	17 英語によるコミュニケーション能力を高めようとしている。	3.3	B	17 入学時と比較して、子どもの英語によるコミュニケーション能力は高まっている。	2.7	C
27 「一生涯がかっこいい」を具現化する生徒の育成			規範意識と基本的な生活習慣が確立し、自己実現に向けて粘り強く努力できる生徒を育てる。	2.7	C	18 「一生涯がかっこいい」といえる高校生活を送っている。	2.9	B	18 子どもは「一生涯」に高校生活を送っている。(※他者との比較ではありません。)	3.0	B	